

コミュニケーション関係学分野

【学士力の考察】(下線部分を修正)

このような背景から、コミュニケーション関係学教育では、豊かな人間社会の営みに寄与することを目的として、グローバル化時代に対応したコミュニケーションの在り方を主体的に模索できることを目指した。

【到達目標1】 (修正が無いため省略)

【到達目標2】 (修正が無いため省略)

【到達目標3】 (到達目標、解説、到達度の下線部分を修正)

3. コミュニケーションの諸事象・諸問題を分析した結果を理論的に考察し、様々な状況、異なる分野で応用できる。

ここでは、コミュニケーションに関わる諸事象・諸問題を考察させ、これまで学んできた理論と技能を活用し、自ら設定した課題から得られたコミュニケーションの仕組みを実際のコミュニケーションに活用できるようにさせなければならない。そのために、分野に応じた課題を選択させる中でふさわしい研究の方法論を用いて調査・分析し、得られた仕組みを実践できることを目指す。

【到達度】

- ② 諸事象・諸問題を考察し解決するために体系的にデータを収集・分析し、コミュニケーションの仕組みを提示できる。
- ③ 異なる文化・社会的文脈などを背景としたコミュニケーションの関係性作りや行き違いを解消するために、コミュニケーションの仕組みを活用できる。